

医師になるための HAND BOOK

中学生・高校生のみなさんへ

めざそう 「医は手の 担い手。」



地域医療の未来を担う
若い力を待っています！

岩手県

病気やケガをしたとき、必要で十分な治療が受けられること。これは、私たちが生活するうえで、とても大切に、とても基本的なことの一つです。そして、当たり前のことですが、医師をはじめとして医療に携わる様々な専門職によって医療機関が運営され、こうした医療体制が確保されることで、私たちは安心して医療を受けることができます。

しかし、岩手県では医師不足が原因で、皆さんの生活にとっても最も大切な地域の医療を維持することが難しくなっています。

このハンドブックでは、こうした岩手の現状のほか、医師の仕事や医師になるために必要なことなどを紹介しています。このハンドブックを読んで、将来の岩手を担う皆さんたちが、医師という職業に興味を持ち、医師を志してもらおうきっかけとなってくれることを期待しています！

もくじ

医師の現状	p3
医師とは？	p4
医師に求められることは？	p5
医学部での6年間	p6
医師国家試験合格後のキャリア	p7
勤務医の仕事紹介	p8
医学部合格への道	p10
岩手県の奨学金制度	p14
奨学金の貸与を受けた場合の負担イメージ	p15
奨学金を借りた場合の勤務は？	p16

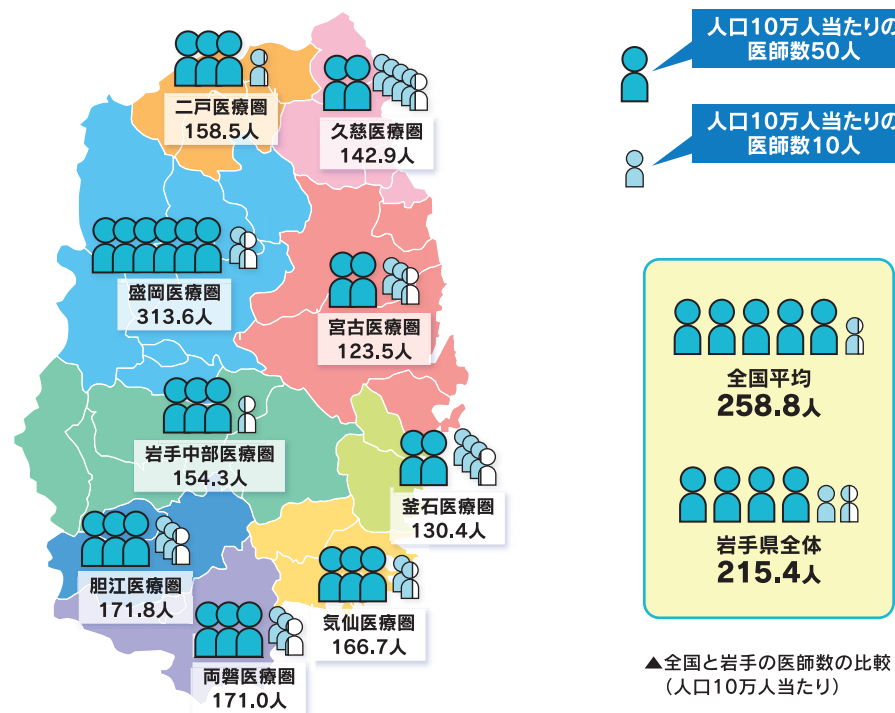


医師の地域偏在

全国的な医師不足を背景に、平成20年(2008年)から約10年の間に、全国の大学医学部の定員が1,700人以上増えたことにより、全国の医師数は増加しています。

岩手県でも医師数が増加していますが、医師が都市部などに偏り、地方の病院で不足する傾向にあり、全国との格差が拡大してきました。

また、国の医師偏在指標では、盛岡医療圏以外は医師少数区域に指定されるなど、医師不足と偏在が深刻となっています。



▲岩手県の医師数(医療圏別・人口10万人当たり)

診療科の偏在

多くの診療科で医師が増加傾向にある中、全国的に産婦人科や小児科の医師不足が問題となっています。岩手県では、全ての診療科で医師が不足しているため、奨学金による医師の養成を進めており、産婦人科や小児科の医師の養成にも重点的に取り組んでいます。



医師という仕事

テレビドラマや映画では、天才的な医療技術で難しい手術を成功させて患者を救う「スーパードクター」のような医師が描かれることが多いため、中学生・高校生の皆さんはそういった医師のイメージを持っているかもしれません。

確かに、医師がいなければ手術できないのは事実ですが、実際には、看護師や薬剤師など病院の様々な医療専門スタッフと連携・協働し、患者の治療や療養にあたるのがほとんどであり、こうしたチーム医療の中心となるのが医師の仕事と言えます。

病院以外にも、地域の身近な診療所で働く医師や大学病院などの研究機関で医療技術の研究を行う「研究医」と呼ばれる医師もいます。

その他に、介護老人保健施設、教育・研究機関や保健所などの衛生行政、保健衛生業務などにも医師は従事しており、私たちが心身ともに健やかに暮らすため、常に医師は必要とされる職業と言えます。



医師になるためには

医師になるには、まずは大学の医学部で6年間、医療に関する技術と知識を学ぶ必要があります。

その後は、医師国家試験を受験し、医師免許を取得しなければなりません。

医師免許取得後は、一般的な診療に総合的に対応するための基本的な能力を身につけるために、大学病院等で2年間の臨床研修を受けることが法律で義務づけられています。



質の高い、安心・安全な医療を提供するために、医師を中心としたチーム医療が求められているんだね



期待される医師像

医師には日々進歩している医療技術や医学知識を吸収する知的向上心や、それを現場に生かす応用力が欠かせません。また、いろいろな医療専門スタッフとチームを組んで指示を与えることもあるので、リーダーシップや協調性も必要です。それに、不安な気持ちでいる患者や家族を思いやり、気配りできることや、ハードな仕事に耐えられるだけの体力があることも求められます。

そして何よりも、人の命を預かっているという使命感を持っていることが大事です。

- **豊かな人間性**
豊かな感性、人間性への深い洞察力。倫理観、生命の尊厳を認識
- **優れた人権意識**
患者本位の立場に立った医療の態度、知識、技能を修得、コミュニケーション能力をもっている
- **幅広い教養**
幅広く豊かな教養と医学・医療の深い専門知識、人間として成熟
- **明確な目的意識**
医療人としての適性や資質を理解し明確な目的意識をもつ
- **幅広い経験体験**
様々な学習、社会体験を有する者が互いに切磋琢磨し協調性をもち人間理解に富んでいる
- **生涯学習の意欲・態度**
日進月歩の医学・医療に対応し、自己の資質の向上を図れるよう自ら学ぶ力や課題を発見する力を身につけている

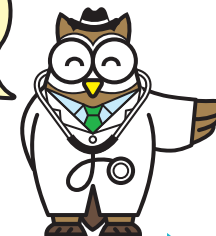
©駿台予備学校 仙台校



つまり、正義感があってコミュニケーション能力が高い人が医師には向いているんだね！

医師になるにはどんなことをすればいいのか見ていってみよう

勉強はもちろんだけど大切なのは人間性！



NEXT 医学部での6年間



医学部のカリキュラム(教育課程)は、大学によって若干の違いはありますが、すべての医師が医学部卒業時まで身に付けるべき知識や技能などを習得できるように設計されています。

1・2年次では、自然科学(物理・化学・生物など)、外国語などの一般教養のほかに、臨床医学の基礎となる**基礎医学(解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、細菌学など)**や**解剖実習**などを学びます。

3・4年次になると、患者を扱うための実用的な学問である**臨床医学(内科学、外科学、産婦人科学、小児科学、精神医学、眼科学、皮膚科学、放射線医学など)**の講義や実習が増加し、専門性の高い授業が増えます。4年次の終わりには、臨床実習に入る前に、**必要な医学知識に関する試験(CBT)**と診療技術や医療に携わる態度などを評価する**臨床試験(OSCE)**を受けることとなります。

CBTとOSCEに合格すると、5年次からは実際に患者と対面し、診察や治療、患者とのやり取りなどを学ぶ**臨床実習**がはじまり、6年次では卒業時のOSCE、卒業試験があり、この試験を突破した者が、医師国家試験を受験することができます。

医療教育モデル・コア・カリキュラム

1年	2年	3年	4年	5年	6年
医師になるための 基礎力・学ぶ力 を養う	基礎力をベースに 解決力 を養う	実習主体に 診る力 を養う	患者と接しながら 現場力 を養う	総合力 を養う	
基礎医学【講義・実習】 早期体験実習 解剖実習	臨床医学【講義・実習】 チュートリアル (少人数グループ型 問題解決学習) 共用試験(CBT・OSCE)	臨床実習・集中講義 ベッドサイドラーニング クリニカル・クラークシップ 卒業試験			

©駿台予備学校 仙台校



大学で授業を受けるだけでなく、
実際の現場で学ぶことが
たくさんあるんだね!

臨床研修

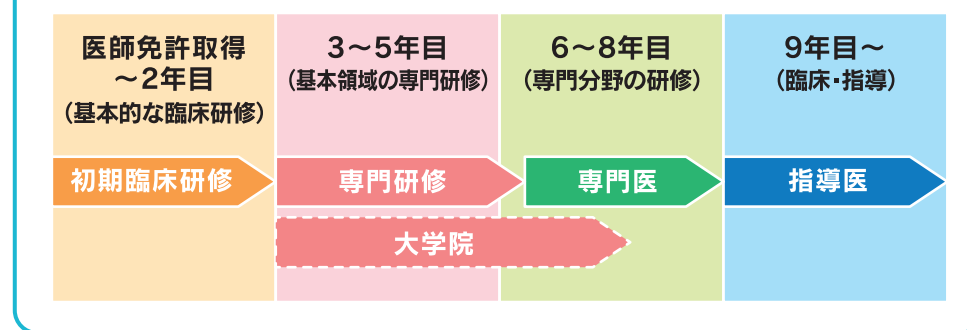
研修医も医師の一人であることに変わりはなく、皆さんがイメージするような医師としての仕事が本格的にスタートします。

臨床研修の期間は2年間。臨床研修病院の臨床研修医となり、内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急、地域医療など、様々な診療科を回りながら、幅広く診療の仕方や治療法など医師としての基礎を身につけ、**最終的に自分が進む診療科を決めていきます**。

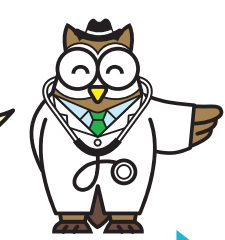
臨床研修後、多くの人は専門の診療科を決めて病院に就職し、大学などの専門研修基幹施設の専攻医として知識と経験を重ね、**専門医の資格取得**を目指します。他にも、専門医を目指さずに**大学院に進学**したり、研究機関に所属して**研究医**になる人もいます。

専門医となった後は、病院等で勤務医として働きながら更に研さんを重ね、自分が専攻する診療科の学会が認定する指導医の資格を取ることで、研修医などの指導に当たることが可能となります。

キャリアパスの一例



岩手で働く
若手医師に
勤務医の仕事について
聞いてみたよ



NEXT 勤務医の仕事紹介



「必要とされ、充実の日々。 それが医師という職業だ。」

ひろせ わたる
廣瀬 亘 医師

岩手県立中央病院／消化器外科医師

平成元年(1989)生まれ

神奈川県横浜市出身

東北大学医学部卒

岩手県立中央病院の研修医として2年間
学んだ後、中央病院で外科医として研さん
を積み、3年が過ぎた。(2019年1月時点)



最高に充実した5年間

岩手県立中央病院で過ごした5年間は怒涛のような毎日でしたが、これまでの人生の中で最も充実していました。担当した患者さんが元気になって帰っていくのが嬉しいし、やりがいを感じます。また、難しい手術が上手いき、上の先生から「よくやった」と言われたときに達成感が得られます。診療も手術もチームで行いますから、日々、指導していただいたり、アイデアを出し合ったりすることで、モチベーションをもって仕事に向き合えます。

感謝してもらえる職業

東京などとは異なり、岩手には患者さんが医師に感謝してくれる風土があります。それは、心の支えになっています。医師が不足し、必要とされている現状もあります。人の命を預かる仕事ですから、大変なことも少なくありません。でも、大変なだけではない。患者さんに必要とされ、しかも感謝していただいて……。僕は、やりがいのある仕事をしたいと考えて医師になりました。その望みが叶えられている今は、毎日がとても楽しいし、幸せでもあります。

会話でつくる信頼関係

「命を助けたい」という使命感で医師を目指す人もいるでしょう。でも、僕のように、やりがいのある仕事を求めるという理由でもいい。患者さんとその家族への説明や医療チームでの話し合いなど、外科ではコミュニケーションがとても大切です。人生の大先輩にあたる患者さんが多いので、僕は敬語でお話しますが、キャラを活かして気さくな話し方をする医師も。それぞれの個性に合わせて信頼関係を築いていければいいのだと思います。

打ち込める幸せを胸に

僕は中学・高校とバスケットボール部に所属し、かなり打ち込んでいました。外科は体育会系なので、自分の部活経験が、とても役に立っています。部活でなくても、何かに一生懸命になれた幸せな経験は、きっと医師という職業を選んだときに活かされる。そう、思います。受験勉強はつらいけれど、それはあくまで処理能力。そこは乗り越えてほしいけれど、あまりガチガチに気を張らずに医師を目指してください。その先に、充実した毎日があるのですから。



ある1日の タイムスケジュール

6:45	起床
7:00	病院着・朝食
7:30	回診・ミーティング
9:30	手術室へ
10:00	執刀
	↓
15:00	終了
16:00	昼食 回診
17:00	事務作業
	↓
20:00	自己研さん 夕食
	↓
23:00	帰宅
24:30	就寝



大学医学部合格者はどのような勉強をしてきたのでしょうか？合格者の体験談を見ましょう！

医学部合格者の体験談【その1】

医学部の入試に限らず、標準的な問題をいかに取りこぼすことなく解けるかということに、合否の分かれ目があります。そのためには基礎的なことをしっかり定着させることや、ケアレスミスといった些細なミスをなくすこと、そして典型問題の解法パターンを習得することが肝要です。

合格への近道は、何度も「復習」することです。あれこれと手を出すのではなく、まず1冊を一瞬で問題が解けるようになるまで繰り返し解き直すことで、必ず実力が向上していきます。参考書によってレベルの差はあっても、設問の中での大切な考え方、解き方は似通っているものです。広く浅く勉強しては、肝心の時に基礎を忘れてしまうことがあります。

医学部合格者の体験談【その2】

高1・2年生のうちに、英語は単語・文法をある程度固め、数学はセンター試験レベル(共通テストレベル)は解けるようにしておきましょう(実際の試験の問題を解くということではなく、そのレベルの問題を解けるようにということ)。

国語も単語・文法を固めればその後の受験勉強にスムーズに移行できると思います。高1・2のうちから医学部受験を見据えて勉強している人は必ず現役合格できていると思います。「見据えた勉強」というのは、特別なことをするわけではなく、英・数・国を中心に高校の授業の内容を完全に理解することに尽きると 생각합니다。頑張ってください。

結局のところ、医学部合格のため大切なことは「基礎・基本(=授業)を大切にすること」です！

入試で問われる内容は、高校の授業の中にあり、授業(基礎・基本事項)の理解度が合否を分けます。難関大学に合格する生徒は、特別な知識を持っている人たちではなく、基礎・標準的な問題で失点しない、わからない箇所(穴)が少ない人です。

大学入試は高校の授業・学習の延長線上にあり、「予習」⇒「授業」⇒「復習・質問」の習慣を重視し、「漏らさず学び取る」姿勢で、授業を受け、「復習(理解・定着)」を徹底することが大切です。定期試験前の一夜漬けの勉強習慣では大学受験には通用しません。

医学部入試に向けて、中学生の頃からすべきこと。

大学入試までまだ時間のある中学生の頃は、どのようなことに気を付けて勉強(生活)すればよいか、いくつかポイントを紹介しましょう。

ADVICE 1 睡眠時間・朝型・早起き

規則正しい生活習慣を身につけることが、授業に集中することにつながり、勉強の質を上げることに繋がります。



生徒例1 1日を集中するために、睡眠時間は最低7時間取っていた。自分が1日集中できる睡眠時間を早く見つけることが重要。

生徒例2 早寝早起きを実践した。友達と生活時間がずれるので、スマホに費やす時間も自動的に減り、勉強にも集中できた。

生徒例3 学校のない土日はいつもより早く起きた。学校がない日は体力を通学や部活に使うことがないのでその分早く起きる。午前中には1週間のおさらいをし、午後は友達と遊んだ。

ADVICE 2 苦手分野・単元の克服

苦手な分野を直視し、間違えた問題を復習し、間違えた原因を発見し、自力で解けるようにすることが穴を少なくし、失点を少なくすることにつながります。

生徒例 全ての教科で自分の苦手な分野や心配な分野をまとめたノートを作っていた。テストなどで明らかになった苦手なところを避けることなく、重点的につぶしていった。



ADVICE 3 復習の習慣をつける

復習はしてしすぎることはありません。教わったことをしっかり定着させるためには、繰り返し復習して、人に教えることができるレベルにすることが大切です。



- STEP5 分かち合える、教える
- STEP4 出来る(精度・速度)
- STEP3 書ける、解ける、話せる
- STEP2 分かる
- STEP1 知る、聞く

答えやり方をただ丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」ということを理解しながら頭に入れていくことが大事だよ！

ADVICE 4 復習をするための前提

復習をするための前提は授業を集中して受けることです。授業中のメモは集中力をより高めます。

生徒例

授業中は板書を写すだけでなく、先生のおっしゃった重要なことを残らずメモした。それにより授業を再現でき、復習に役立った。

ADVICE 5 効果が期待できる様々な取組

◆スキマ時間の利用

通学のバスや電車の時間を使った暗記系の勉強。少し騒がしいところの方が集中しやすいという生徒が多くいます。

◆音読は効果的

自分で「音読タイム」を作っている生徒がいます。英文だけでなく古文や、理社の知識の習得にも音読を用いると効果的です。

◆自ら質問に行く

中学生のうちに「質問に行く習慣」をつけることが重要です。質問することで頭の中も整理できます。



◆部活・行事に熱心に取り組む

勉強にとって大事なことは「何かと両立させる」こと。部活・行事等に夢中に取り組む充実感が真剣に勉強に向かう姿勢につながります。

また、5ページの「期待される医師像」にあるように、医師には知識ばかりではなく、豊かな人間性や優れた人権意識などが求められることから、医学部入試では、医学生としての適性をみるために面接や小論文試験が課されます。コミュニケーション能力や協調性などは、勉強以外の部活や生徒会、各種行事等を経験する中で養われるものですので、決して疎かにしてはいけません。

医学部合格者の体験談【その3】

高校では、積極的に学校行事に参加しました。高校3年生の7月初めに実施された文化祭に向けても、劇の練習や模擬店の出店準備など2か月以上かけて行いました。意見の食い違い、非協力的な人への不満、理想に近づけないことへのいらだちなど苦勞することはたくさんありましたが、その分多くを学べたと思いますし、将来に生かしていける経験だったと思っています。

学習面では模試の結果に落ち込まない、ということを中心掛けました。志望校判定そのものではなく、できなかったところはどこかを洗い出し、その「穴」を埋めるための学習計画を立てて、実行するようにしました。自分の苦手科目、苦手分野と向き合い続けてきたことが、医学部現役合格につながったと思います。

まとめ 医学部受験に向けて

医学部は人気があり、入試倍率が高い、質の高い学力も必要。さらに面接・小論文も必要。

医学部入試だからといって特別な学習は不要。医師にふさわしい、幅広い教養・倫理観・協調性・コミュニケーション能力を身につけることは必要。

医学部合格への第一歩は、中学・高校の授業を大切にすること、理解すること。そして全てにおいて全力で、充実した「中学・高校生活」を送ること！

奨学金を活用しよう!

医学部は他の学部比べて学費が高いため、医学部への進学を目指す場合、学費や生活費をどのように準備するのか考えておくことはとても重要なことです。下表は、国立大学と私立大学の学納金の一例です。

大学の学納金	国立大学	私立大学 (例:岩手医大)
初年度	82万円	900万円
次年度以降、毎年度	54万円	500万円
6年間 合計	352万円	3,400万円



奨学金の貸与を受けた場合の負担イメージ

岩手県では、修学支援と医師確保を目的として、岩手県医師修学資金、市町村医師養成修学資金、医療局医師奨学資金という3つの制度を設けています。

①岩手県医師修学資金(岩手医科大学地域枠推薦入試A)

岩手医科大学の地域枠特別推薦入試Aの合格者に対する奨学金制度で、通称「地域枠A」と呼ばれています。岩手医大は私立大学ですが、学費3,400万円に対して3,050万円を貸付するため、実質負担額は350万円と国立大学並みの負担で通学することができます。

区分	大学の学納金	修学資金の額	実質負担額
初年度	900万円	850万円	50万円
次年度以降、毎年度	500万円	440万円	60万円
6年間 合計	3,400万円	3,050万円	350万円

②市町村医師養成修学資金、③医療局医師奨学資金

国立大学医学部に入学して、修学資金を借りる場合は、市町村、医療局の制度とも学費のみならず、生活費にも十分充てることができる貸与金額になります。私立大学医学部に入学して、修学資金を借りる場合は、市町村、医療局の制度とも学費の概ね3分の2に相当する貸与金額となります。

なお、医療局医師奨学資金には、将来、産婦人科の医師を目指す私立大学の医学生向けに「産婦人科特別枠」という貸付枠があり、この制度を利用した場合、通常よりも高い修学資金が貸与されるため、経済的な負担を少なくすることができます。

奨学金を借りた場合の勤務は?



これらの奨学金制度は、県内で勤務する医師を確保するための特別な貸付制度ですので、一定の条件で県内で勤務した場合には、奨学金の返還免除を受けられます。医学部入学時から6年間貸与を受けた場合、医学部を卒業し、県内で臨床研修を受けた後、市町村・医療局の制度は6年間、岩手県医師修学資金は9年間、指定する医療機関で勤務する必要があります。(※2020年4月時点)

区分	市町村医師養成修学資金	医療局医師奨学資金	岩手県医師修学資金
返還の免除	県内での2年間の臨床研修後、 県立及び市町村立等の医療機関で通算6年間勤務	県内での2年間の臨床研修後、 県立病院等で通算6年間勤務 ※	県内での2年間の臨床研修後、 公的病院等で通算9年間勤務 ※

※地域枠奨学金(16頁参照)については、県内で勤務する際に、岩手県が定める「キャリア形成プログラム」が適用されます。

奨学金を利用した先輩からのメッセージ

「経験を積み、地元のために働きたい」

大学入学時は、海外留学を経て、都会で働きたいと思っていましたが、1年生の3月に起こった東日本大震災がきっかけで地元に戻りたいと考えるようになりました。実家は自営業で、決して裕福とは言えず、奨学金に助けられました。ここは知り合いが多く、戻ってきたことを喜んでくれる患者さんもいます。育った大船渡が好きなので、将来的には県外のさまざまな場所でも勉強し、その経験を持ち帰って、また大船渡病院で働きたいと思っています。



ささき けんた
佐々木 健太 さん
大船渡市出身
新潟大学医学部卒
県立大船渡病院勤務
[医療局医師奨学金]



あらい しずか
荒屋 禅 さん
大槌町出身
岩手医科大学医学部学生
[岩手県地域枠奨学金]

「精神的にもサポートできる医師を目指します」

中学2年の3月に東日本大震災を経験したことが、医師を目指すきっかけとなりました。被災後、救急医をはじめ、多くのお医者さまが県内外から大槌町に来てくださいました。衝撃の大きさに何も考えられなくなりましたが、お医者さまがいるというだけで安心できました。その経験から、自分も岩手で学び、医療を通じて岩手の人たちを支えたいと、この道を選んだのです。将来は、病気を治すだけでなく、患者さんの精神的なサポートもできる医師になりたいと考えています。

岩手県の奨学金制度



岩手県では、出身地や貸与金額など、自分の条件に合わせて選べる奨学金を用意しています。詳しくは、各問い合わせ先に御連絡ください。

<地域枠奨学金>

医師の不足や偏在を解消することを目的に実施している大学医学部の入試制度と連動している奨学金制度

奨学金名	岩手県医師修学資金	医療局医師奨学資金		
区分	岩手医科大学 地域枠A	岩手医科大学 地域枠B	岩手医科大学 地域枠C	東北大学 地域枠
定員	15名	8名	5名	2名
出願者の出身地	岩手県出身者	東北出身者	制限なし	岩手県出身者
入試方式	特別推薦入試	特別推薦入試	特別入試	特別入試
貸与額	440万円/年	30万円/月	30万円/月	20万円/月
入学一時金	410万円	—	—	—
申込み・ 問い合わせ先	岩手県保健福祉部 医療政策室 TEL:019-629-5427	岩手県医療局医師支援推進室 TEL:019-629-6352		

<その他奨学金>

奨学金名	医療局医師奨学資金		市町村医師養成修学資金
区分	産婦人科特別枠	一般枠	
定員	2名	8名	15名
出願者の出身地	制限なし	制限なし	制限なし
入試方式	各大学の入試 方式による	各大学の入試 方式による	各大学の入試方式による
貸与額	40万円/月(私立のみ)	国立20万円/月 私立30万円/月	20万円/月
入学一時金	—	—	760万円(私立のみ)
申込み・ 問い合わせ先	岩手県医療局医師支援推進室 TEL:019-629-6352		岩手県国民健康保険団体連合会 保健介護課 TEL:019-623-4324

問い合わせ先

岩手県保健福祉部 医療政策室

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1 県庁9階
TEL.019-629-5427